

レファレンス

コーナー

メコン地域開発の

関連資料

河田重隆

メコン川は中国、ミャンマー、ラオス、タイ、カンボジア、ベトナムの六カ国を流域に含み、南シナ海へと注ぐ国際河川である。インドシナ三国の戦火が終息した後、一九九二年にアジア開発銀行（ADB）のイニシアティブで大メコン圏（GMS）経済協力プログラムが開始され、メコンの地域開発が大きく前進した。日本も東西経済回廊や南部経済回廊におけるインフラ整備などをさまざまな支援を通して、ASEAN域内の格差是正や地域統合に寄与してきた。本誌一九九九年三月号のこのコーナーで「メコン流域経済圏について」の資料が紹介されている。本稿ではそれ以降に刊行された最近の資料を紹介したい。

アジア経済研究所で実施された研究会の成果として、以下の三冊がある。まず石田正美編『メコン地域開発 残された東アジアのフロンティア』（アジア経済研究所 二〇〇五年）は、後発国であるカンボジア、ラオス、ミャンマーの経済発展の可能性を、人口、人的資源、産業発展の観点から検討しているほか、タイ、ベトナムおよび中国雲南省のメコン

地域開発への関与について述べている。つぎに石田正美・土藤年博編『大メコン圏経済協力 実現する三つの経済回廊』（アジア経済研究所 二〇〇七年）は、GMS経済協力プログラムの基本的コンセプトである三つの経済回廊（東西経済回廊、南北経済回廊、南部経済回廊）で流域

各国の経済がどう変化するかを探っている。中国の章では、GMSプログラムに一九九二年から参加している雲南省と二〇〇五年に参画した広西チワン族自治区の比較が行われる。石田正美編『メコン地域開発研究 動き出す国境経済圏』（アジア経済研究所 二〇〇八年）は、ヒトとモノが移動する国境に焦点をあてた研究会の中間報告書である。

白石昌也編著『インドシナにおける越境交渉と複合回廊の展望』（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 二〇〇六年）は、科研費の四カ年研究プロジェクトの研究成果であり、国境地帯で実際に陸路・鉄道・水路を「踏査」した現地調査に基づく。

末廣昭ほか著『大メコン圏（GMS）を中国から捉えなおす』（東京大学社会科学研究所 二〇〇九年）は、「現代中国研究拠点 研究シリーズ No.三」として刊行されたもので、東南アジア、メコン地域に対する関与を急速に深めつつある中国の対外戦略や貿易関係を軸にまとめた研究報告書である。

GMSプログラムはメコン地域開発への国際的支援の枠組みのなかで

最も包括的といわれるが、森園浩一著『インドシナ地域（拡大メコン圏）協力の現状と課題—わが国の地域開発協力の視点から』（国際協力事業団国際協力総合研修所 二〇〇二年）は、その具体的な実施状況を踏まえて実効性を検討し、日本の開発協力における課題を考察している。

ASEAN域内の後発国であるカンボジア、ラオス、ミャンマーおよびベトナム（CLMV諸国）の経済発展による格差是正は、この地域の重要な課題である。日本政策投資銀行メコン経済研究会編著『メコン流域国の経済発展戦略—市場経済化の可能性と限界』（日本評論社 二〇〇五年）は、CLMV諸国の市場経済化の進捗状況を検証し、制約要因として不採算な国有企業や、巨額の不良債権を抱える国有銀行に象徴される構造問題を指摘する。また中国雲南省とCLMV諸国間の貿易・投資についても取り上げている。

メコン地域は文化遺産や自然など豊かな観光資源に恵まれているが、観光開発の進展度は国によって相当な差異がある。タイは観光大国であり、CLMV諸国のなかではベトナムの観光が九〇年代以降急成長しているという。横太一ほか著『メコン地域の経済—観光・環境・教育』（大出版センター 二〇〇六年）は、各国の観光の現状を紹介し、タイについてはエビ養殖・観光産業の発展とマングローブ破壊との関係を論じている。さらにメコン地域の日本語

教育事情が紹介され、日本語学習者が増加する背景を観光需要と日本企業の現地進出の側面から考察している。

秋道智彌編『図録メコンの世界—歴史と生態』（弘文堂 二〇〇七年）は、中国雲南省、北タイ、ラオスにおいて自然系・人文社会系両分野の研究者の連携の下に実施された四年間に及ぶ調査研究をまとめたものである。「第一部 資源と生態（森林、大地、水域、野生動物と家畜モノ作りの知恵）」「第二部 食と健康（食文化、食と栄養・健康）」「第三部 生態史の世界（商品と国境交易、モンスーン地域の資源管理）」の三部構成をとり、過去半世紀の間幅でこの地域の生態史に光を当てている。多数の写真や図が掲載されており、視覚的にも理解を深めることができる。

最後に雑誌の特集としては、本誌本号の「特集 メコン地域—越境手続きの自由化の展望と国境経済圏の形成」のほか、「特集 メコン地域開発の現状と展望」（本誌 二〇〇六年一月）、「特集 メコン開発がインドシナの物流を変える」（「ジェトロセンサー」二〇〇六年二月）、「インドシナ特集 つながるメコン 動き出す日本企業」（「国際開発ジャーナル」二〇〇七年五月）、「第二特集 メコン地域の可能性」（「外交フォーラム」二〇〇九年九月）などがある。

（かわた しげたか／アジア経済研究所図書館資料サービスマン）